

茗溪



夏

2025

令和7年

no.1125

目次

- グラビア 01 ~ 02
- 令和7年度定時総会・出席代議員一覧 03
- 定時総会理事長挨拶 04
- 学長挨拶 05
- 令和6年度決算報告 06
- 令和7年度事業計画・予算書 07
- 定時総会議事（要旨） 08 ~ 09
- Peer Garden（茗溪アルバム） 10 ~ 13
- 「知の提供・誌上講座」日本古典詩歌の流れと芭蕉の役割 14 ~ 15
- 元素講話こぼれ話 第9話 16
- 茗溪・筑波倶楽部 17
- 教職相談窓口（R7.4.1 ~ R8.3.31） 18
- 人間学類（学群）50周年記念式典 19
- 茗溪・東西南北 20
- 桐の葉のつどい 20 ~ 21
- 筑波大学は今 22 ■ 茗溪学園だより 23
- 追悼録 24 ■ 春の叙勲受章おめでとうございます 25
- 広報 25 ■ 表紙のことば 25 ■ 編集後記 25



安全に、快適に、正確に
OZONE 大曽根タクシー株式会社
 代表取締役 塚本 一也

☆GOアプリ配車
 ☆貸切バス事業者より
 安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO
 SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院
 博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行
 っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：専務取締役 岡本 俊一
 〈昭和56年 第一学群社会学類卒業〉

<https://www.sekisho.co.jp/>

KAIT

**力と自信がつく教育で
 「考え、行動する人材」を育成します。**

■工学部

機械工学科

電気電子情報工学科

応用化学生物学科

■情報学部

情報工学科

情報ネットワーク・コミュニケーション学科

情報メディア学科

情報システム学科

■健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)

管理栄養学科(管理栄養士養成課程)

臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄(S52 理)

林 忠(S58第1自)

吉川 亮(S60第2比)



神奈川工科大学
 KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
 TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>

令和6年度茗溪会賞 芸術部門優秀者

【moire 2412】



大久保 智子さん
(芸術学学位プログラム・構成)
推薦者 上浦 佑太先生



【学校めぐり、めぐりあい】



田中 弥呼さん
(芸術専門学群・建築デザイン)
推薦者 加藤 研先生

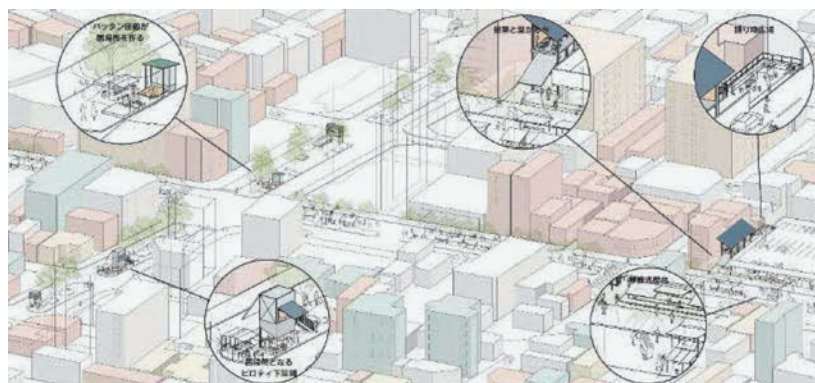


【慈 雨】



北埜 杏侑さん
(芸術専門学群・日本画領域)
推薦者 程塚 敏明先生

【やわらかい建築】



若山 新太郎さん
(デザイン学学位プログラム)

推薦者 加藤 研先生





一般社団法人

茗溪会 第14回 定時総会

令和7年6月21日(土) 茗溪会館にて

定時総会出席代議員一覧

(敬称略)

筑波大	山澤 学	千 葉	渡 部 徹	山 梨	小 林 智	大 阪	戸井田 克己
名誉教授の会	大嶋 建一	千 葉	西 川 和 樹	長 野	石 川 裕 之	大 阪	香 山 恭 慶
北海道	川 口 淳	東 京	柳 久美子	長 野	宮 坂 博 昭	(代理) 兵 庫	岸 部 健 司
岩 手	高 橋 緑	東 京	浅 井 一 郎	新 潟	遠 間 春 彦	奈 良	谷 垣 康
宮 城	土 生 善 弘	東 京	栗 原 茂 夫	(代理) 山 形	辻 本 努	和 歌 山	森 文 哉
秋 田	田 口 良 実	東 京	掛 谷 一 夫	(代理) 石 川	居 村 吉 記	鳥 取	小 倉 健 一
(代理) 山 形	津 田 浩	東 京	飯 島 睦 子	静 岡	遠 山 一 郎	山 口	開 地 元 典
福 島	伊 豆 幸 男	東 京	久 保 淳	静 岡	鈴 木 康 之	徳 島	藤 川 美 和
茨 城	秋 本 光 徳	東 京	笹 のぶえ	愛 知	米 津 利 仁	福 岡	加 藤 茂 文
栃 木	小 島 雄 一	東 京	田 中 修	(代理) 愛 知	柴 田 悦 己	佐 賀	松 雪 誉
群 馬	今 井 貴 子	神 奈 川	大 石 進	愛 知	丹 後 茂	大 分	加 藤 寛 章
埼 玉	細 田 幸 一	神 奈 川	中 野 久 美 子	岐 阜	増 田 智 至		
埼 玉	小 林 一 郎	神 奈 川	石 川 裕 子	三 重	若 宮 一 哉		
千 葉	猿 渡 末 治	神 奈 川	加 藤 充 洋	(代理) 京 都	遠 山 秀 史		
				(代理) 京 都			

挨拶

一般社団法人 茗溪会
理事長 井口 武雄



明るく楽しい 茗溪会のために

こんにちは。理事長を致しております井口武雄でございます。東京教育大学を一九六五年に卒業いたしました。

本日ここに全国から代議員の方々にご出席いただき、一般社団法人茗溪会になりましたから十四回目の総会が開かれますことを大変嬉しく思います。代議員の皆様にはお忙し中お時間をお繰り合わせいただきましてありがとうございます。

今年は総会を今までとは一月遅い六月に開催することに致しました。また土曜日の開催となりましたがいかがでしょうか。

アメリカ合衆国にトランプ大統領が

就任されてから半年になろうとしていきます。就任早々少し大げさに言えば、前政権の政策をどんでん返し次々に新しい政策を打ち出しています。中でも関税の大きな礫が飛び出し、日本はもとより世界中の国々が経済への影響に戦々恐々することになりました。会員の皆様もご事業や生活に影響を受けておられるのではないのでしょうか。また大学の方針や行動が政府の方針にそぐわないとして補助金の削減や廃止に加えて留学生についての厳しい対応が進められてきました。

このような環境の中ではありますが、茗溪会は引き続き明るく楽しい同窓会作りに励んでおります。その為に行わなければならない課題があることはあらゆる機会に申し上げてきました。またかと言われるかもしれませんが活力ある茗溪会を維持し発展を続けるためにお許しをいただきたいと思います。

課題の一つは会費会計の健全化であり、もう一つは新会員の増加であります。

茗溪会全体の財政は先輩が築いて下さいました茗溪会館と土地の活用による資産会計の黒字により健全そのものであります。しかし、いつまでもこの黒字に頼ってはいけません。将来後輩に苦勞を強いることになります。このことを踏まえて昨年の総会におきまして会費を三五〇〇円から五〇〇〇円に引き上げることをご決議いただきました。合わせてここに至る背景につきまして会員

の皆様にしつかりご理解をいただくために周知期間を置くことも決めていただきました。それからほぼ一年が経ちましたのでいよいよ今年の四月から新しい会費によって茗溪会の運営を行うことになりました。是非値上げの理由をご理解いただきご協力くださいますようお願い致します。

この値上げによって苦しい会費会計の問題が一気に解決するわけではございません。茗溪会は会員の皆様に等しく会の運営にご協力いただくことによつて成り立つ必要があります。この点にかんがみますと会費を払っていただいている会員の割合が6%前後ということはいかかかなものかと思わざるを得ません。会費の支払いをお忘れになつておられる会員や地区茗溪会（支部）の会費を支払っているからそれで十分と思つておられる会員がおられることも事実であります。そこで思い切つてそのような会員の皆様にご案内を致しましたところ相当数の会員の方からお支払いいただくことが出来ました。このような努力は続けてまいります、広く会員の皆様から会費のお支払いをいただかなければ会はずんでしまうことを理解していただき、会費をお支払い下さいますようお願い致します。

新会員の加入はどのような組織においても絶対に必要なことであります。勿論茗溪会もその例外ではありません。現在も入学時に茗溪会のお知らせと加入についての案内を印刷物により行つ

ております。また茗溪会は大学や学生に対する協力も実施しております。しかし、新規の加入者は昨年度におきましてもわずか67人というのが実態であります。

茗溪会は教育界において活躍をしておられる会員の組織と経済界において活躍をしておられる会員の組織の二つの柱を持つ特色のある同窓会であります。二つの分野にかかわる具体的な活動はご存知の通りでございますがごく簡単におさらいを致します。教育界に關しましては、教員志望の学生に対して大学とも協力して教員試験対策の研修を行っております。経済界に關しましては、卒業生と学生との率直な懇談をする機会を設けて、キャリアを磨き卒業後に進みたい道を確認し必要ならばそのための方策などの助言を卒業生が行っております。「OB OG キャリアカフェ」と「ぶっちゃけ相談会」がそれであります。経済界で活躍しておられる会員が一堂に会して情報交換をする筑波・茗溪倶楽部も年一回開催しております。これは非常に特色のある異業種交流会と言えます。勿論これらの催には教育界の会員と教員志望者も参加しています。このような茗溪会の価値を多くの学生と大学に知っていたくための方策を引き続き強化していくつもりであります。新しい会員の発想と行動が茗溪会に新しい息吹を入れてさらに活力を増進してくれると信じております。本日の総会よろしくお願ひ致します。

令和7年度 茗溪会定時総会

学長挨拶

国立大学法人 筑波大学長
永田 恭介



貴会から本学への日頃からの暖かいご支援に関し、深く感謝を申し上げます。貴会の令和7年度の定時総会に際して、ご挨拶を申し上げます。

本学は、昨年度から次の50年 (Next 50) に向けてスタートを切りました。「未来構想大学」というコンセプトのもと、固定化された社会構造を変革し、未来社会に貢献する大学像の実現を目指して、着実に歩みを進めています。

日本の「知の総和」を向上させる教育への取組を進めています。昨年9月1日には、海外で初めて日本の学位を授与する大学として、筑波大学マレーシア校が開講し、学際サイエンス・デザイン専門学群が設置されました。9月3日に開催した開校記念講演には、マハティール元首相もお招きし、講演も行っていました。同校から地

球規模課題解決に貢献する有為の人材が多数飛び立っていつてくれるだろうと期待しています。

また、学生たちと同じキャンパスで切磋琢磨する場を提供するため、学住近接型学生宿舎の全面リニューアル計画を進めています。この宿舎は、個人指導によって「学び」を深めていくつくば型チュートリアル教育を行う場にもなります。1年生は全員入居するシステムとすることで、世界の多様な文化と価値観にあふれるコミュニティの中で筑波大学の一員としてのアイデンティティを育むようにしたいと思っています。

本学は昨年11月に「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」のタイプⅡ・海外展開型に採択されました。プログラム名は、GASHUKU(合宿)とDOJO(道場)によるグローバル人材育成であり、具体的には、海外留学を促すため、RUN DP→HOP→STEP→JUMPと段階を踏んだ学修プログラムを設計し、ロジックモデルを明確にしています。各段階の方策として「合宿」「道場」というレトリックを用いる、多文化共修マイスター制度を導入するなど、学生の留学経験への心理的参入・継続の障壁を低くする試みや日本側の学生と海外の学生のバランスが取れた参画を意識し、「オープンバッジ」や「マイクロクレデンシヤル」の発行等により、学びの可視化や質保証のシステムについても適切に計画しています。また、「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出

支援事業」の幹事校にも指名されたことを受けて、本年3月14日、事業開始を記念し、今後の各大学の取組と大学間の連携をさらに拡大することを目的として、キックオフシンポジウムを開催しました。

本学で進めている様々な取組を更に加速させるための手段として、本学は、本年5月、国際卓越研究大学の認定に向けた第一次申請書を提出しました。大学改革を先導してきた筑波大学は、学理を創成する未来構想大学へと自らを変革します。筑波研究学園都市の産学官の研究機関とともに研究教育共同体となり、国際性と学際性を両輪に、組織間、学問分野間の壁を越えて生み出される新たな価値をスパーシティ型国家戦略特区で実装し、固定化された社会の変革を牽引します。

本年度、悠仁親王殿下が生命環境学群生物学類に入学されました。本学の教育研究や学修環境に魅力があると考えていただけただけことを大変名誉に思います。悠仁親王殿下をはじめとする本学の学生たちが、私たちの直面する地球規模課題に立ち向かうことができる国際的な視野と実践力を備えた人材として羽ばたけるような環境整備や体制強化の取組を、今後も力強く続けていきます。

茗溪会におかれましてはますますのご発展をお祈りするとともに、引き続き本学へのご支援をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」キックオフシンポジウム(本年3月14日、虎ノ門ヒルズフォーラムにて)



サインボードを掲げる永田学長とマハティール元首相(昨年9月3日、マレーシア校にて)

令和 6 年度決算報告

貸借対照表

令和 7 年 3 月 31 日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	59,141
未収消費税	—
流動資産合計	59,141
2. 固定資産	
特定資産	
固定性預金	29,655
投資有価証券	354,661
その他資産	
建物	521,229
構築物	2,234
機械装置	3,572
什器備品	2,403
土地	314,776
固定資産合計	1,228,530
資産合計	1,287,671
II 負債の部	
1. 流動負債	
前受金	27,291
未払法人税	10,369
未払消費税	803
預り金	535
流動負債合計	38,998
2. 固定負債	
退職給与引当金	0
満期共済金引当金	2,650
保証金	1,400,000
修繕費積立金	0
固定負債合計	1,402,650
負債合計	1,441,648
III 正味財産の部	
一般正味財産	△153,977
正味財産合計	△153,977
負債及び正味財産合計	1,287,671

正味財産増減計算表

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用収益	
地代収入	76,248
建物賃貸収入	18,000
会費収入	
正会員受取会費	15,012
茗溪フェロー会費	1,732
事業収益	
委託料収入	2,430
広告料収入	2,600
寄附金	
寄附金収入	1,275
雑収入	
受取利息収入	24
駐車場利用収入	2,468
雑収入	531
有価証券受取利息収入	
積立資産収入	3,894
経常収益計	124,214
(2) 経常費用	
事業費	
給与手当費	25,024
助成金	2,888
式典事業費	789
記念品費	0
旅費交通費	1,068
負担金	200
通信運搬費	5,409
印刷製本費	7,626
水道光熱費	2,569
業務委託費	10,148
租税公課	38,737
修繕費	7,657
火災保険料	883
占春園支出	0
管理費	
監事報酬	150
臨時雇賃金	0
福利厚生費	35
総会諸費	891
会議費	514
旅費交通費	1,039
通信運搬費	1,427
什器備品費	717
消耗品費	1,093
印刷製本費	936
集金費	1,848
諸謝金	750
負担金	98
会員データ管理費	2,733
渉外費	0
賃借料	595
減価償却費	26,737
雑費	49
経常費用計	142,610
当期経常増減額	△18,396
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
固定資産除却損	61
経常外費用計	△61
当期経常外増減額	△61
当期一般正味財産増減額	△18,457
一般正味財産期首残高	△135,519
一般正味財産期末残高	△153,976
IV 正味財産期末残高	△153,976

収支計算書

令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

(単位：千円)

科 目	会費会計	資産会計	合 計
I 事業活動収支の部			
(1) 事業活動収入			0
会費収入	16,744	0	16,744
正会員会費収入	15,012		15,012
フェロー会費収入	1,732		1,732
事業収入	2,600	96,678	99,278
地代収入		76,248	76,248
建物賃貸収入		18,000	18,000
委託料収入		2,430	2,430
広告料収入	2,600		2,600
寄付金収入	1,275	0	1,275
寄付金収入	1,275		1,275
雑収入	259	2,763	3,022
駐車場利用収入他	0	2,468	2,468
受取利息収入	24		24
その他雑収入	235	295	530
有価証券受取利息収入	3,894	0	3,894
積立資産収入	3,894		3,894
(2) 事業活動支出			
事業費支出	51,430	37,867	89,297
管理費	12,877	0	12,877
事業活動支出計	64,307	37,867	113,346
事業活動収支差額	△39,535	61,574	10,867

令和 7 年度 一般社団法人 茗溪会 事業計画

1. 事業計画のねらい

- (1) 茗溪創基150年記念事業の継続とともに、将来を見通した事業展開を目指す。
- (2) 地域組織等の活動の充実・活性化事業を推進する。
- (3) 地域組織を基盤に、教育界と産業界（官界を含む）を二本立てとして組織化を推進する。
- (4) 正会員の増加及び会費納入アップのための組織的・計画的な活動を推進する。

2. 事業の目的（定款第3条）

会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人筑波大学の目的及び使命の達成に協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資する事を目的とする。

3. 事業の内容（定款第4条）

- (1) 会員相互の親睦や共益を図るために以下の事業を進める。
 - ① 教育界同窓との連携
 - ② 産業界・官界同窓との連携
 - ③ ネットワークによる同窓との交流促進
 - ④ 追悼のつどいの実施
- (2) 定期刊行物の発行に関する以下の事業を進める。
 - ① 季刊誌「茗溪」の発行
- (3) 地域組織等の会員の教養向上に資する以下の事業を進める。
 - ① 地域組織等主催による公開講座への助成及び講師派遣
- (4) 学術、芸術、社会貢献等の課外活動に対する支援、顕彰等に関する事業を進める。
- (5) 財産の管理・運営に関する以下の事業を進める。
 - ① 茗溪創基150年記念事業を機とした財政の再編強化
 - ・ 会費の増収を図るための施策の立案と実施
 - イ 会員名簿の整備による各地域組織等との連絡調整態勢の推進
 - ロ 会費未納会員への働きかけの工夫と推進
 - ハ 未加入会員の入会促進策の立案と実施
 - ② 適切な資産運用並びに積極的な利活用
- (6) 教育の振興、普及活動に資する以下の事業を進める。
 - ① 筑波大学との連携による学生のキャリア形成
 - ② 教職希望者の育成及び研修会の開催
- (7) 「茗溪創基150年記念事業」から「茗溪会創立150年記念事業」への橋渡しを図る。
- (8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業を企画・実施する。

4. 前項の各事業は、全国において行うものとする。

令和 7 年度予算書

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

（単位：千円）

科 目	会費会計	資産会計	合計	科 目	会費事業会計	資産会計	合計
I 事業活動収支の部				印刷製本費支出	2,800	0	2,800
1. 事業活動収入				租税公課支出	2,100	37,000	39,100
(1) 事業活動収入				業務委託費支出	2,665	8,500	11,165
会費収入	21,500	0	21,500	光熱水料費支出	1,750	750	2,500
正会員会費収入	19,500	0	19,500	火災保険料支出	618	265	883
フェロー収入	2,000	0	2,000	修繕費支出	2,000	4,000	6,000
事業収益	2,600	97,878	100,478	管理費	11,036	3,683	14,719
地代収入	0	76,248	76,248	監事報酬	105	45	150
建物賃貸収入	0	19,200	19,200	給料手当	0	0	0
委託料収入	0	2,430	2,430	臨時雇賃金	0	0	0
広告料収入	2,600	0	2,600	福利厚生費	47	0	47
寄付金収入	0	0	0	総会諸費支出	630	270	900
寄付金収入	0	0	0	会議費支出	350	150	500
雑収入	40	2,764	2,804	旅費交通費支出	490	210	700
駐車場利用収入	0	2,614	2,614	通信運搬費支出	1,050	450	1,500
受取利息収入	30	0	30	集金費支出	1,800	0	1,800
その他雑収入	10	150	160	什器備品費支出	502	215	717
有価証券受取利息収入	4,668	0	4,668	消耗品費支出	2,170	930	3,100
積立資産収入	4,668	0	4,668	印刷製本費支出	700	300	1,000
事業活動収入計	28,808	100,642	129,450	会員データ管理支出	1,960	840	2,800
(2) 事業活動支出				諸謝金支出	525	225	750
事業費支出	46,150	52,602	98,752	負担金支出	70	30	100
給料手当支出	23,127	2,087	25,214	渉外費支出	7	3	10
助成金支出	5,000	0	5,000	賃借料支出	595	0	595
式典費支出	450	0	450	雑支出	35	15	50
旅費交通費支出	600	0	600	予備費	0	0	0
負担金支出	240	0	240	事業活動支出計	57,186	56,285	113,471
通信運搬費支出	4,800	0	4,800	事業活動収支差額	△28,378	44,357	15,979

第14回定時総会議事(要旨)

茗溪会第14回定時総会が、茗溪会館「茗溪の間」で開催されました。例年、5月に開催されている全国高等学校長協会総会の日程に合わせて行われてきましたが、今年度は6月21日(土)の開催となりました。



会場

総会に先立ち、この一年の間に亡くなられた会員の方々の偲んで「黙祷」が捧げられました。

一 開会

矢野事務局長より、出席者数について、代議員総数85名のうち出席53名、委任状提出28名から定款第17条第1項

により、総会が成立する旨が報告されました。



井口理事長

二 理事長挨拶

井口武雄理事長よりご挨拶がありました。内容は4ページに掲載されています。

続いて海外出張中の筑波大学永田恭介学長に代わり、西尾チヅル副学長が挨拶文を代読されました(学長挨拶はP5参照)。



西尾副学長

三 議事

定款第15条により井口理事長を議長とし、定款第19条第2項に従い、栗原茂夫代議員、笹のぶえ代議員の2名を議事録署名人に選任し、議事に入りました。

第1号議案 令和6年度事業報告、決算書類及び監査報告の承認について

まず、矢野事務局長から、本議案の事業報告、決算書類は、事業年度終了後の第84回理事会において、監事の監査も含めて承認を得ていることが申し添えられました。また、定款第40条に①事業報告、②貸借対照表、③正味財産増減計算書は、定時総会に提出し承認を得るとされていることの説明も加えられました。

事業報告については矢野事務局長が、会計書類、貸借対照表、正味財産増減計算書の説明は會田局長代理が行いました。続いて監事を代表して飯塚監事から監査報告がありました。

事業報告における特筆すべきこととして、毎年複数回実施している教職受験対策講座への受講者が激減していること、筑波大学1期生の会が茗溪会館で開催され百名以上の参加者があったことなどが報告されました。

議長が、質問意見を求めたところ、計算書における保証金についての質問があり、會田局長代理から説明が加えられました。



矢野事務局長

議長が諮ったところ、異議なく承認されました。



飯塚監事

第2号議案 令和7年度事業計画(案)及び予算(案)について

議長から、本議案についても第84回理事会において承認を得ていることが申し添えられました。

事業計画案については、矢野事務局長から、予算案については會田局長代理から説明がありました。

本会の会計には、会費会計と資産会計があるが、会費会計部分は大きな赤字となっていて、資産会計がそれを補填する形になっている。その会費収入を増やすために様々な事業展開を計画していくという説明がありました。



會田局長代理



西村大塚事務所長

これらの説明の後、議長が質問などを求めたが特になく、2号議案について諮ったところ異議なく承認されました。

報告事項 代議員選挙について

西村大塚事務所長から、説明がありました。

令和7年度は、代議員選挙が行われることから、選挙に向けての確認や説明がありました。

以上で定時総会の議事は無事終了しました。

情報交換会

引き続き情報交換会を開催しました。

これは初めての試みとなるものでした。ご出席の代議員、地域組織関係者の皆様にアンケートに答えていただき、その回答を基に情報交換をしました。

質問は、大学の同窓会に関わる



情報交換会時の会場



筑波大学野崎主幹

もの、茗溪会員になった時期、会費に関わるもの、教職の方かどうか、総会の時期について、本会事業として実施している異業種交流会に関わる質問に、各人のスマートフォンを使って回答していただきました。これらの回答の集計結果を、その場で会場のスクリーンに、グラフなどの映像にして映し出し、茗溪会への加入率を高めるための方策について分析し、地域組織の実情などと合わせて情報交換をしました。地域組織の困ったことを聞いてもらいたいなどの要望意見もいただきました。

また、大学は卒業生との連携を強化したいと、昨年「事業リレーション推進部」を設置しましたが、その担当者もこの情報交換会に参加しました。地域組織の総会などにも参加させていただき、卒業生の皆様と大学及び学生と



白岩名誉教授

の繋がりを深めてさせていただきたい、と希望を述べられました。
他にも地域組織の一つである「名誉教授の会」の方々を、地方組織で催す講演会（生徒向け講演会などを含む）などに活用していただければ幸いであると、白岩善博名誉教授からお話をいただきました。事務局からも、本部署事務局が問い合わせの窓口となること、案内が付け加えられました。

懇親会

阿江副理事長に開式のご挨拶をいただき、懇親会が始まりました。



阿江副理事長

改めて井口理事長のご挨拶をいただいた後、懇親会出席者最年少の卒業生花木氏（H27体、大学職員）の音頭で乾杯し、歓談となりました。



乾杯

和やかな雰囲気、そこかしこで会話が弾み、楽しく時を過ごしました。地域組織から総会の案内などもありました。

また、『茗溪創基百五十年記念誌』の話題も出ていました。



懇親会時の会場



宣揚歌

最後に、恒例の宣揚歌「桐の葉」を高らかに歌い会を閉じました。

（茗溪会理事 柴田 淳）



「追悼のつどい」は、「秋分の日(秋季皇霊祭)」、あるいは、その前後に行われていたが、コロナ禍や長引く残暑を避けるため、初冬へと移りつつある。

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？

二人のお嬢さん

昨年の初冬、「追悼のつどい」に臨席されたご遺族の中に、宮本直美、齋藤眞子、ご両名のお姿もあった。

宮本直美さんは、故宮本昇氏(S22臨教)の長女として列席されていた。

齋藤眞子さんは、故丹野薫子さん(S23女子農教)の長女として、そして、薫子さんの弟にあたる故松本益男氏(S29教地鉦)の姪として列席されていた。

●会員名簿

茗溪会発行の「会員名簿」がある。



A4版、900頁強の冊子で分厚く重い。現在は発行されていない。

最終版(平成8〜10年)は、大正2(1913)年「東京高師本科」を卒業した会員から始まっている。

大正9(1920)年になると、「東京帝大農部付農業教員養成所」卒の会員が名簿に登録され始めた。

大正12(1923)年、東京帝国大学農学部が駒場から本郷への移転を機に、農業教員養成所で独立の機運が高まった。

運動は続けられ、昭和12(1937)年、東京農業教育専門学校として発足した。

昭和16(1941)年の会員名簿に、「東京帝大農部付農業教員養成所」に代わり、「東京農業教育専門学校」が新規掲載された背景には、斯様な経緯がある。

大正13(1924)年には、「臨時教員養成所」卒会員の名簿登録が始まった。

臨時教員養成所は、高等師範学校以外に存在した官立中等教員養成機関として、戦前の中高等教育を支えてきた。

大正11(1922)年、第一臨時教員養成所(臨教)が東京高師、第二臨教が広島高師、第三臨教が奈良女高師に併置され、当初は2年を修業年限とした。

その後、昭和4(1929)年、北海道帝大に併置された第十六臨教、さらに増設が続き、仙台臨教(東北帝大)、福岡臨教(九州帝大)、徳島臨教(徳島高等工業学校)が併置された昭和18(1943)年まで、25校を数える。

昭和16(1941)年、名簿内に、「12月卒業」の項目が登場し、翌昭和17(1942)年に、「9月卒業」へと変わり、この事態は昭和22(1947)年まで続く。

その昭和22年の「9月卒業」の項目に続いて、「農業教員養成所」、翌23年には、「女子農業教員養成所」卒の会員が登録され始めた。

昭和28(1953)年、東京教育大学卒の会員が初めて加わり、昭和30(1955)年以降に登録される会員は、東京教育大学の卒業生のみとなる。

東京教育大学は、国立大学設置法(1

949年公布)により、東京文理大、東京高師、東京体育専門学校(体専)、東京農業教育専門学校(農教)を包括して、文、理、教育、体育、農の5学部を有する総合大学として発足した。

「四校包括」に伴い、体専の「翔陽会」、農教の「駒場会」は、東京文理大・東京高師の「茗溪会」とともに大同団結し、「茗溪会」として一つの同窓会となった。昭和34(1959)年のことである。

さて、会員名簿内にある「臨時教員養成所」と「女子農業教員養成所」である。

「追悼のつどい」で、お二人のお嬢さんは、父上や母上への敬愛の念が強く、熱く語られるお姿も見受けられた。

「臨教」「女子農教」の資料があればお寄せいただきたいと、お願いしたところ、宮本直美さんから整理された資料をご送付いただき、齋藤眞子さんは茗溪会事務所で資料を届けにいらした。



2/4(火)、資料の説明をお聞きしている時、「同窓のお嬢様が文京にお住まいですよ、電話や手紙のやり取りだけですが」の一言で、宮下(旧姓 清水)直のお嬢さんの藤本洋子さんも加わり、お話を伺うことができた。茗溪会館近くの蕎麦屋にて。右奥が藤本洋子さん、手前が齋藤眞子さん、左手前は西村大塚事務所長、左奥は矢野事務局長。

●駒姫会

女子農業教員養成所一期生の同窓会を「駒姫会」という。

丹野薫子は、昭和20年、16歳の夏に入学し、19歳の春に卒業している。同窓も、ほぼ同じ年頃だろう。戦中戦後の学園生活で培われた結束力は、強かつたに違いない。

七十余年の人生：駒姫の私たちは、三十幾通りかのそれぞれの人生の日々を、ここまでひとりも欠けることなく生きてきました。何か大きな力で生かされてきたとさえ感じます。

相沢信子は、『駒姫小史』の「まえがき」の中で、このように綴っていた。



昭和46年8月6日、「植谷先生米寿祝賀会」（東京・京王プラザホテル）。前列右に厚沢留次郎、植谷銆両先生。「子供を連れ、連れ合いを伴う」家族ぐるみの同窓会が毎年開催された。（『駒姫小史』より）

昭和31年夏に、第一回同窓会が東京で開催され、以降、全国で、ほぼ毎年のように開催された。最後の会が熱海で開かれた。57回目の同窓会である。

●卒業間近 昭和22年11月21日（土）

快晴の御殿場で仰ぎし富士。：卒業を春に控えて：苛烈な当時を追想しながら路野辺の一本一耳一石にも話しかけたいような親しさと懐かしさで訪れた：

思えば祖国の消亡すら氣遣われる折柄、雄々しくも志を立て、えらばれてここに集まった40余名の諸嬢。遠く父母の膝元を離れて：この地の日常の営みは予想以上の耐乏生活でむしろ欠乏生活の連続であった。：業なる日近く、今日見上げた優麗の富士の思い出は：永遠に諸嬢の胸によみがえるであろう。（植谷銆「日記とところどころ」『駒姫小史1945（2001）』平成13年10月18日発行p38）



昭和23(1948)年3月10日 卒業の日

「えらばれてここに集まった」とある。募集定員50名、「入学検定料、授業料不要且学資ヲ補給ス」、昭和20年4月中旬に願書受付、入試が行われた。

「入学試験は駒場本校で受けた。空襲も始まっており、宿泊の本郷から緊張して出かけた。そして数学の問題を解く最中、警報となり、試験官に：防空壕に入る指示があるまで続けるようにと言われ緊迫の中で終了した。」

その後、東京大空襲があり、「入試結果は出ないかとも思っていた」が、「七月一日までに到校」の通知が届いた。（竹山一子「夕映えにカンナの燃える敗戦忌」前掲p9）

●御殿場

御殿場駅富士山口を出て、東大路を北上し、国道138号線（御殿場バイパス）を潜り暫く行くと、右手に禅寺がある。

宝持院、御殿場駅から約2 kmほどである。



東大路を挟んだ斜め北に静岡県立御殿場高等学校がある。宝持院から550 m程で、戦前は、御殿場実業学校であった。

宝持院や高校から、富士が見える。



母や祖母・姉妹は北海道の滝川に渡り、父は職場から帰らず、ひとり川崎の家の庭の防空壕に入って見上げる闇空には、サーチライトが激しく動き、高射砲からの砲弾は空を切り裂くように尾を曳き、そして一機、めらめらと紅い炎をあげ、回りながら落ちていくその美しいまでの炎の中、いま命が消えていくのだと思いが胸に突き刺さった昭和20年の春、そして昭和20年の夏、8月15日の御殿場のあの時、よもや21世紀のこの日まで生き永えようとは思いませんでした。

（相沢信子「まえがき」前掲）

80年前に戻ろうと思う。

●贈る言葉

昭和23年春、東京農業教育専門学校長七澤甚喜による女子農業教員養成所第一期生に贈る言葉から始めたい。

50年の農業教育史のうちに女子の農業教員を養成したという例もなく、また女子にして専門の農業教育者になった方はおそらくないでありましょう。今回卒業される30有余名は、まったく我が国始まって以来初めての事であって、我が国農業教育史上に新しい一頁を飾ったことはあまりにも痛快なことであります。

(七澤甚喜「卒業生に贈る」前掲^{p22})



昭和23(1948)年3月10日 卒業の日

●80年前の夏―御殿場

昭和20年6月29日 御殿場実業学校校舎一棟を借用して開校するため本日本地に至る。

女子農業教員養成所の舎監兼講師であった植谷鉦(せき)による「東京農業教育専門学校女子農業教員養成所開設当時の日記抄」の書き出しである。

その一ヶ月前の「山の手空襲」により、駒場の校舎は焼失していた。

同年6月30日

：御実校視察の後、田口旅館に引き返し入所生の受付をなす。本日20名の

入所者は御殿場館、田口旅館：に分宿す。

御殿場館は、東大路を越えた右手にある。この辺りは現在も旅館街で、田口旅館も開業していたと思われる。

終戦間近の混乱の中、志を立てた少女達が全国各地から御殿場にやってきた。

「汽車に乗った時は、再び京都に帰れないと思うと如何に気強く持っていた自分の心とはいえ、寂しさと心配で一杯であった」と、大谷千代は回想する。

御殿場実業学校に無事に着いて、付き添ってきた母が帰る。「廊下の角より姿を隠して母の後ろ姿をじっと見送った。」

「今頃どの辺かしら」と母の事ばかり気にながら荷物を解く：思わず涙が出て：こらえることできず声が出る。もう荷物を解く手も涙でなにも見えず、ふと横を見ると、神戸さんも行李に顔を付けて―思わず二人は手を止めて声を出して泣いた。」

(大谷千代「入学の思い出」前掲^{p49})

●空襲下の入所式

「女子農業教員養成所」の「入所式」ということだが、「入学式」と同義である。ここでは、「日記抄」の表記に従う。小泉洋子は、入所式当日の朝、宮城から御殿場に着いた。

「恰も荷物が歩いている如き格好で駅を出た。：御殿場館に荷物を預けて、

やつと楽になって、あたりを見廻した。大きな旅館が軒を並べている。：厭にくねくね曲がつた道をかたじけなくど長く歩いて御殿場実業学校に着いた。：もう皆来ている。入学早々の遅刻であった。」

(小泉洋子「スタート」前掲^{p63})

同年7月1日 入所式

生徒宿舎は裁縫室、図書室、組み分け配当をなす。：教職員宿泊室は作法室、但し小職は生徒と同宿す。

同年7月2日

生徒38名：教職員5名：警報しきりになる。

同年7月3日

生徒総数39名となる：午後学校より荷車借用して生徒は自分の荷物を駅より運ぶ。(その後、7月29日に、入所生徒が48名となり、ほぼ全員が揃った。)

同年7月4日(水)曇

授業が始まった。最初の授業は生物：開墾実習であった。鋏を担いで約一里半を歩く。大野ヶ原の開墾実習だが、「俄か百姓」ということで、甚だしく手間がかかった。くたくたに疲れて宿舎に着いた。足を引きずりながら「ママができた手で洗濯をした。」

(小泉洋子、前掲^{p64}参照)

一日八時間の日課表は、すぐに崩れた。本校から出張してくる教官もいる。いきおい、その日は、単一科目の集中講義となる。間もなく、授業に代わって勤労奉仕の日々が始まった。

7月19日(木)曇

空襲と連日警報が発令される。：いやに大袈裟な報道：を信じて大いにわめきたてる。その騒ぎの鎮まった後は必ずホームシックである。

今日は午後から、秩父宮邸畑の中の除草作業をした。何もかも忘れて、皆大いに頑張つて、夕暮迫る頃帰途についた。

(小泉洋子、前掲^{p64})

秩父宮の人柄を伝える記録がある。

「自身地下足袋をはいて、畑にも出てこられた。：記念撮影にも気軽に応じてもらえた」と、少女達の高揚が伝わる。だが、フィルムを入れ忘れていた。

(岡野薫子『太平洋戦争下の学校生活』^{p28})

●秩父宮御殿場御別邸

御殿場バイパスに乗り、東名御殿場インターを過ぎてすぐに、箱根外輪山の麓に広がる秩父宮記念公園がある。もともとは、血盟団事件で暗殺された井上準之助の別荘「皆山堂」であった。

昭和15(1940)年に肺結核と診断された秩父宮殿下は、翌年、皆山堂を購入し、秩父宮御殿場御別邸とされ、戦時中は勢津子妃とともに療養生活を送られていた。

昭和19年初冬、御殿場別邸上空を敵機が通過するようになり、翌年春に、東海軍により殿下専用の防空壕構築計画が立てられ、4月上旬に構築が開始された。

掩体セメント作業のために将兵250名が増員、その他約140名にて照明燈下の

もと作業が続けられた。その間、市内小学生も石積み奉仕作業に加わり、こうして、6月22日に竣工となった。



当時、皇位継承第3位であった殿下の防空壕は特殊掩体壕というかまぼこ型で、遮断層として石を1.5mほど積み上げ、その後さらに土を盛った構造で強度があるものだった。右手奥の円錐は防空壕の通気口。

植谷鉦の「日記抄」に戻る。

当地の食糧配給特に悪くして生活困難を極む。副食物につきては配給絶無にして僅に東京の本校より輸送せるキヤベツ50貫と御実校よりの厚意による馬鈴薯50貫、その他塚本商店より購入せる昆布、富貴等にて僅かに食生活を営む。

毎日のように警報が多くなり沼津で方向転換して東に進む爆撃機の音を聞き講義を受けていた。時には防空壕に入ったが、度々となり機敏に動けない学生が出た。永沢教授が「我見えざる飢饉に罹れり」と、これが栄養失調の走りであったと思う。

(竹山一子、前掲p2)

同年7月31日

本日午前5時半より空襲警報終日。殊に午前7時当時に小型機来襲駅附近機銃掃射をうけ死傷あり。非常用として各自に二食分握り飯携帯させた。

御実校も機銃掃射を受けた。食堂でスイートンをよそい分けていた時だった。「耳元に硬い断続音が響き、私たちはあわてて机の下にもぐりこんだ」

(岡野薫子、前掲p28)

同年8月1日 晴

空襲目標になる御実校の宿泊は危険なりとのことにて宝持院に移転する。

同年8月15日

空襲警報連日続くために本日出口教官指揮のもとに午前9時より寺内に防空壕（一人用の無蓋防空壕）を掘る。正午陛下の終戦の御放送に啞然として休講す。

児童文学作家の岡野薫子は、丹野薫子や清水直とともに学園生活を共にした。当時の様子を『太平洋戦争下の学校生活』（新潮社、1990年）として上梓している。しばらく、岡野の著述に従おうと思う。

植谷先生は、戦争は終わったのだ！と、はらはら涙をこぼした。それを見ると、私たちも次々声をあげて泣きだした。泣きながら庭に出ていて、掘りかけのタコ壺を埋めにかかった。

(岡野薫子、前掲p35)

同年8月21日

植谷先生はこの日、自分の部屋にもりつきりだった。自害するかもしれないと、私は思った。皇国家政を説き、日本不滅の信念で生きてきた先生が、自害するのは、有り得ないことではないような気がした。「先生のお部屋、見てください」と、誰かがいった。しかし、植谷先生は、養生を放っておいて、

そんな無責任な行動をとる人ではない。そのことも私たちはよく承知していた。

(岡野薫子、前掲p39)

その夕刻である。植谷は少女たちに、四、五人ずつ部屋に来るように伝えた。

岡野の記述は続く。

先生の部屋に行った者は、少し経つと、小さな包みを手に、目を赤くしながら戻ってきた。私の番がきて、おそるおそる行ってみると、先生は経机の上から薄べったい包みをとって差し出した。裏を返すと、「昭和二十年八月二十一日、植谷鉦」と、達筆な文字で書かれてあった。中に絹の端切れが入っているという。

「もう、あなた方の時代に、お振袖を着ることもないに違いない！でも、私はあなた方に、そんな美しい着物を若い娘が着た時代もあったのだということとを覚えてほしい。せめて、娘らしい夢をもち続けてほしい！」植谷先生は目をうるませた。

萩の花の振袖：黒い防空服やもんぺ姿ばかり見慣れた目は、その華やかさにとまどいながら、すいこまれるようにみつめていた。(岡野薫子、前掲p40)

同年8月22日

本校より一時休校に入る伝達あり：

同年8月26日 晴

生徒全員帰郷の途につく。

こうして、御殿場の学園生活は閉じた。2年後の植谷の日記である。

昭和22年10月19日(日)晴

小春日和のよいお天気。午後赤坂の友を訪ねて帰途、数歩前に行く人の後ろ姿、征きて帰らぬひとにとてもよく似ているので歩を速めて面をのぞく。似ても似つかぬ顔で失望した。他人の空似といえども、さて探し求めればなかなか空似の顔も見当たらないものである。

臉にのこるおもてを現世の人に求むる比頃の我狂気染みた事として人は笑うであろうが：

昭和50年11月15日

植谷鉦(享年90歳)の告別式に少女たちは多数参列し、生花一对を供花した。

平成13年10月18日

一期生から四期生42名が、無縁仏となった植谷の二十七回忌法要を、四谷の正應寺にて執り行った。

法要の日、『駒姫小史』が発行された。「謹んで本書を植谷鉦先生に捧げます」と記されていた。

*文中では、敬称を略させていただいた部分もございます。ご容赦ください

小紋小切布着



御殿場で終戦、学校もこれでおしまいかと茫然自失の折、植谷先生は学生全員に小紋の小さい布を贈って下さいました。再び会うことが出来ないかもしれないと言う、悲愴な思いがあったのでしょうか。私はその小さな布で手提袋を造りました。

布の裏には筆で
昭和二十年八月二十一日
植谷鉦よりと署名がありました。
神戸鈴子

「日本古典詩歌の流れと

芭蕉の役割」

清登 典子（筑波大学名誉教授）



＊はじめに

今日の私たちに身近な詩歌の一つとなっているのが「俳句」である。そして「俳句」の詩としての在り方を決めたのが江戸時代の俳人、松尾芭蕉である。では、芭蕉は日本詩歌の流れの中でどのような役割を果たした詩人と言えるのだろうか。

本稿では日本詩歌の史的展開を押さえたうえで、芭蕉が日本詩歌史上で果たした役割につき述べてみることにする。

＊日本古典詩歌の二つの流れ

まず日本の古典詩歌の全体像を押さえておこう。そこには性質の異なる二つの詩歌の流れがある。

一つは「雅び」の美意識に基いて作られる詩歌の流れである。具体的には『古今和歌集』に始まる勅撰和歌集（勅命により編集された和歌集）に収められる和歌の世界がこれに該当する。和歌は基本的に「やまとことば」の「雅語」のみを用いて作られる詩歌であり、「歌会」や「歌合わせ（左右に分かれた歌人が一首ずつの和歌を競い合わせ優劣を判定する文学競技）」などの公けの場で作られることも多かった。

これに対するもう一つの流れとして、談笑の場で楽しまれた「機知」「滑稽」「笑い」を主眼とする詩歌の流れが存在する。その源流は上代歌謡に見られる恋の場での男女の掛け合い歌にあると考えられる。平安時代には正式な記録として書き残された作品は多く存在しないが、たとえば『古今和歌集』の編者である凡河内躬恒と紀貫之とが歌会や「歌合わせ」などの後の談笑の場で次のような短連歌（二句連歌）を詠んでいたことが知られている。

奥山に船こぐ音のきこゆるは 躬恒
なれる木の実やうみ渡るらむ 貫之

躬恒の五七五句は、「奥山で船を漕ぐ音が聞こえるが（どうしてか）」と問いかけたもの。これに対して貫之の七七句は、「（奥山で）実っている梨や栗などの木の実が「うみわたっているらしいよ」と答えたものである。「うみわたる」の語句を「うみ（熟）わたる」という意味と「海渡る」という二つの意味を掛けて用いて、奥山で船を漕ぐ音がするのは、木の実が「うみ渡っている（＝熟し渡っている）海を渡っている（＝からだ）と答えたものになる。躬恒の出した「謎」に貫之が掛詞を用いて巧みに答えたものであり、その場にいる人々から笑いと賞賛が送られたことが想像される。このような謎解きの要素を持つ「ことば遊び」の間答体が「短連歌」を特徴づけるものであった。平安時代から鎌倉初期を通じて実方、西行など多くの有力歌人たちが短連歌を楽しんでいたことが知られている。

＊「短連歌」から「長連歌」へ

鎌倉時代に入ると「笑い」の詩歌であった「短連歌」に新しい動きが見えてくる。それまでの二句一章形式の「短連歌」に代わり、五七五の句と七七の句とを交互に長く連ねていく「長連歌」という形式が登場し、広く行われるようになったのである。初期には機知・滑稽性の強い作風の長連歌も行われたが、鎌倉時代末から室町時代以降になると、二条良基（1320～1388）や飯尾宗祇（1421～1502）といった優れた連歌師たちが出て、式目（連歌の規則）が整備された。また勅撰集に準ずる集として『菟玖波集』、『新撰菟玖波集』が編集され、「長連歌」は和歌に並ぶ「雅び」の詩歌としての地位を確立することになる。この和歌的な優美な世界を詠む「長連歌」は「純正連歌」と呼ばれたが、のちには単に連歌と言えば「純正連歌」を指すようになる。

この時代の連歌の詩的達成を示すのが『水無瀬三吟百韻』である。いま冒頭の三句を引用して示す。

雪ながら山もと霞むたべかな 宗祇
行く水遠く梅匂ふ里 肖柏
川風にひとむら柳春見えて 宗長

ここに見られるのは和歌的で優美な世界の展開であり、「笑い」の要素は皆無である。「百韻」とは句を百句連ねる形式の連歌で、正式な連歌形式とされ、多くの式目が定められていた。引用した冒頭部だけに限って言えば、最初の「雪ながら」の句は「発句（ほつく）」と

呼ばれ、必ず当季（実際に連歌が作られた時の季節）の季語を詠むことが求められた。これは伝統的に挨拶の基本が季節に即したものとされてきたことによる。また百韻全体では花の句を四回、月の句を七回詠むことが決められていたが、これも和歌伝統の中で花と月とが美の象徴として重視されてきたことによる。その他多くの式目が存在するが、その根本にあるのは和歌で培われた伝統的美意識であった。

ただし、連歌には和歌とは異なる表現上の特色がある。それは前の句と次の句とで作る二句一章の世界が三番目の句が付くことで新しい世界に転ずる必要があることである。掲出した例で言えば、発句と脇句で作られた初春の景は、次の「川風に」の句によってその二句前の発句の世界からは離れ、「行く水遠く」と「川風に」の二句で梅と柳が風に吹かれる川辺の景の世界へと転じられている。ちなみに四句目には「舟さす音もしるきあけがた」という無季の句が付けられており、風にのって舟に棹さす音が聞こえる明け方の様子へと場面がさらに転換する。このように、二句で作られる情景が次々と変化する点にこそ連歌の詩としての特質がある。和歌的な美意識に基づく優美な世界が次々と展開しながらも一貫するテーマのある長い物語となるのではなく、あくまでも二句ずつで情景が変化し展開していく点に日本的な美の在り方が表れている。

＊「純正連歌」と「俳諧の連歌」

ここまで、発生期には「笑い」の詩

歌であった「短連歌」が「長連歌」となり、内容的には和歌の美意識を基盤としつつ和歌以上に雅びな世界を追求する「（純正）連歌」となったことを述べた。では「笑い」の詩歌の流れはここで途絶えてしまったのだろうか。実は、鎌倉・室町時代を通じて連歌が流行し、次第に「純正連歌」として洗練されていくのと時期を同じくして、新しい「笑い」の詩歌が生まれるようになっていった。それが「俳諧之連歌」である。

哄笑的な笑いが、「俳諧之連歌」の性格をよく表していると言える。

＊江戸時代における俳諧の流行

江戸時代に入るとそれまでは連歌師の余技として談笑の場でのみ楽しまれてきた「俳諧之連歌」が広く一般の人々にも作られるようになる。名称も「俳諧」という略称が一般的となった。そうした動きに大きく貢献したのが松永貞徳（1571～1653）とその一門であり、彼らの俳諧は貞門俳諧と呼ばれた。貞徳はこの時代随一の文化人として京都に住んだ人物で、俳諧を連歌を学ぶための前段階のものとして捉えた。そして連歌と俳諧との違いは、連歌が雅語のみを用いるのに対して俳諧は雅語とともに俗語・漢語などの語を自由に用いる点にあるとの説を提示した。

使用する語の違いで連歌と俳諧を区別することはわかりやすい考え方であり、連歌を学ぶために最初は用語の規制の少ない俳諧から学ぶべきだという貞徳の教えは広く受け入れられた。その結果江戸時代初期の俳諧人口は全国的に増加することになる。温和で教養主義的な貞徳の作風は、先に示した宗鑑の付け句の猥雑性を強く批判して、同じ「霞のころも裾はぬれけり」の前句に對して示した「天人（てんにん）のあまくだるらし春の海」という付け句によく表れている。この句が俳諧とされるのは連歌では用いることのできない「天人」という漢語が使われている点によるが、内容的には連歌に近い上品な作風を示すものとなっている。

「俳諧」の語は「滑稽」を意味し、「俳諧之連歌」で「滑稽な連歌」という意味になる。形式は「連歌」と同じでありながら内容は連歌の規範から外れた滑稽なものであり、主として連歌会後の寛ぎの場で楽しまれた。これは平安時代の和歌会などの後に談笑の場で作られた短連歌の流れを受け継ぐものである。同時に「連歌」が共同制作の詩であり、種々の規則に基いて作られるものであることから、連歌後の寛ぎの場はより開放感に満ちたものとなり、卑俗・滑稽性の強い笑いを求めるものとなった。そのことは室町時代の連歌師で「俳諧之連歌」の上手として名高かった山崎宗鑑の作例を見ると理解できる。たとえば「霞のころも裾はぬれけり」という前句に對し、宗鑑は「佐保姫の春立ちながら尿（し）をして」という付け句を付けて評判となる。霞の衣の裾がぬれてしまったという前句に、それは春の女神である「佐保姫」が「立ちながら尿をしたから」と付けたのである。ここに見られる奇想天外な発想と猥雑性、滑稽性の強い作風、

一方で貞門俳諧のこうした生ぬるい

俳風に飽き足りない思いを抱く俳人たちも増えてゆく。反貞門の中心的な存在として擁立されたのが大坂天満宮の連歌所宗匠、西山宗因（1605～82）であり、その俳諧を談林俳諧と呼ぶ。その俳風は、室町時代の俳諧之連歌の流れを汲む滑稽性の強さを志向するもので、古典世界の雅語に卑俗な日常語を結びつけ、その落差からくる笑いを樂しむものであった。

江戸時代初期の俳諧は貞門俳諧、談林俳諧それぞれの作風に違いはあるもののどちらも古典を踏まえた言語遊技に基づく笑いの詩歌である点では共通している。やがて同一古典、同一辞句の使用が繰り返されてマンネリ化することで行き詰まりを見せていく。

＊芭蕉の登場と詩歌史上での役割

こうした状況の中で俳諧の新風を求めて模索していたのが松尾芭蕉である。芭蕉は故郷の伊賀上野では貞門俳諧を学び、その後江戸に出て談林俳諧を学んで俳諧宗匠となった。しかし延宝期に入ると言語遊技としての俳諧に空しさを覚え、自身の生き方にも懷疑を抱くようになる。やがて延宝八年（1680）冬、深川に隠棲した芭蕉は中国や日本の詩人達に学び、禅や莊子思想に傾倒する中で新しい詩としての俳諧のあり方を探っていくようになる。

貞享三年（1686）春、芭蕉庵で催された芭蕉一派の『蛙合』は、『古今集』以来の伝統的季題「蛙」を俳諧でどう表現するかを競う試みであった。その折の芭蕉発句がこの句である。

古池や蛙飛びこむ水の音

伝統的に鳴き声を詠むものとされてきた蛙を新しい視点から捉えた句であり、しかも冬眠から覚めた蛙が古池に飛び込んだ水音に春の訪れを感じ取るという清新な詩情が表現されている。この句が俳壇にもたらしたインパクトは大きく、芭蕉の代表句として喧伝されるようになる。

その後、旅と庵住を繰り返す中で俳諧を深化させていった芭蕉が晩年に理想としたのは、身近な庶民生活に素材を求め、それを技巧を排した平明な表現で詠む俳風であった。たとえば次の芭蕉晩年の発句には、そうした志向がよく表れている。

塩鯛の齒ぐきも寒し魚の店

句中に用いられているのは塩鯛・齒ぐき・魚の店（たな）など、すべて和歌・連歌では用いることのできない卑俗な日常語である。しかし一句全体で表現されているのは、魚屋の店先に並ぶ塩漬の鯛のむき出しになった齒ぐきに寒さを覚えるという生活の中の詩情である。

日常生活の中に詩情を発見し、それを日常の言葉で表現しえたところに芭蕉の詩人としての功績があった。それまで日本詩歌史上に存在していた「雅び」の詩歌と「笑い」の詩歌という対立する二つの詩歌の流れを止揚し、俳諧を「日常卑近の美」を表現する「詩」として確立したこと、それこそが日本詩歌史上で果たした芭蕉の大きな役割であったと言うことができる。以上

元素講話こぼれ話 第九話： 6番目の元素炭素に関して

大嶋 建一

6番目の元素：炭素(C)は石炭や木炭、ダイヤモンドの成分として古くから知られている。英語名の「Carbon」は木炭を意味するラテン語の「Carbo」より由来する。人体と元素については元素講話こぼれ話第一話（2023年夏号No.1117号）で述べたように、体重70kgの成人での必須常量元素の体内存在量では、炭素は酸素に次いで2番目の重量16kgも含まれ、重要な元素である。

炭素のみで構成される物質の代表例はダイヤモンドと黒鉛（グラファイト）がある。ダイヤモンドの結晶構造はいずれのC原子も4個のC原子に正四面体型に囲まれ、共有結合距離は0.154nmでC-C単結合のそれに等しい。ダイヤモンドはすべての物質中最も硬く、熱伝導率も高いが、絶縁体である。一方、黒鉛（グラファイト）の結晶構造はC原子の4個の価電子の内3個を用いて隣接する3個のC原子と次々に0.142nmの距離を持つ共有結合を作り、正六角形を基本とする平面の網目構造になっている。この網目状の平面構造は面間距離0.335nmで弱い力（van der Waals力）で結ばれ、3次元構造を有する。残った1個の電子は非局在化して層間全体に広がっているため、平面同士は剥がれやすく、かつ柔らかく金属的な光沢を持ち電気を通す。これらの2つの物質の構成原子は同じであるが、原子の配列に依存して異なる物性を示すことにより、同素体と呼ばれている。

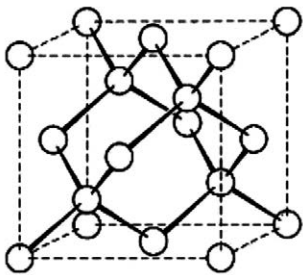
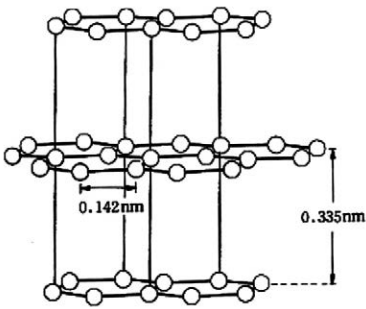
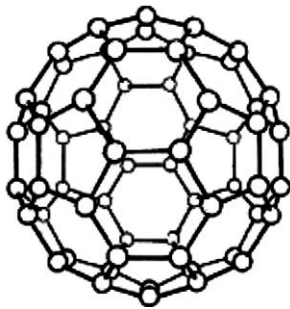
1985年、英国のハロルド・クロトー、米国のリチャード・スモーリーとロバート・カールは黒鉛にレーザ

ー光をあて、炭素原子60個からなるサッカーボール状の第3の同素体C₆₀を初めて発見し、フラーレンとして名づけた。この形状は6員環が20枚、5員環が12で、60個の交点を炭素が占めている。3博士は1996年度のノーベル化学賞を受賞した。その後、フラーレンの中空に様々な金属原子を内包することが分かり、この物質は内包フラーレンと呼ばれている。以下では3つの炭素同素体の性質と略図を下表にして示す。

2004年、アンドレ・ガイムとコンスタンチン・ノボセロフはグラファイトが層状で結合力の弱いファンデルワールス力での結合によりはがれやすいことを利用して、セロファンテープで一層から成る二次元物質、グラフェン、を得ることに成功した。そのほかの製法として、炭化ケイ素を熱分解する手法、触媒金属層を形成した基板に炭素を含むガスを供給する化学的気相成長法がある。彼らはこの成功により、2010年度のノーベル物理学賞を受賞した。また、1991年、飯島澄男博士はフラーレンを作成中にアーク放電した炭素電極の陰極側の体積中から、一様な平面のグラフェンを丸めて円筒状にした構造で先端を閉口状態にした物質、カーボンナノチューブ、を発見した。彼はこの功績により2009年文化勲章を受章した。

原子番号6を持つ炭素は4個の外殻電子を持ち、同時に4個の空席を持つので、多様な形状を持つ化合物を作り出す。地球上の約700万種類の既知物質の内、90%は炭素を含む化合物である。特に、我々は日常、タンパク質や糖、アミノ酸、脂肪等を含む肉類や穀物を食べていて、炭素が「生命の元素」と呼ばれている。

文献：「化学I」（実教出版）、「材料科学への招待」（培風館）、「改訂化学」（化学同人）、「元素111の新知識」（第2版増補版、講談社）、ウィキペディア（フリー百科事典）。

同素体	ダイヤモンド	黒鉛(グラファイト)	フラーレン (C ₆₀)
融点 (°C)	3550	3370(昇華)	
密度 (g/cm ³)	3.51	2.27	1.68
色	無色	灰黒色	茶褐色
硬さ	固い	軟らかい	
電気導電性	なし	あり	あり
結晶構造	ダイヤモンド型 4面体状の格子	炭素の六角形、層状型	32面体60個の頂点に炭素 (サッカーボール型)
			

茗溪・筑波倶楽部―異業種交流会Ⅲについて（案内）



《参加登録フォーム》

1 会場と人数、会費

- (1) 名 称 茗溪・筑波倶楽部―異業種交流会Ⅲ
(「茗溪・筑波産業人倶楽部」の名称を変更しました)
- (2) 日 時 令和 7 年 8 月 23 日(土) 13:00～17:00
- (3) 会 場 茗溪会館 2階「茗溪の間」(2F 受付)
交通 地下鉄 丸ノ内線 茗荷谷駅から徒歩 3 分(220m)
- (4) 参加費 3,000 円(当日、受付にて徴収)
- (5) 交通費 遠方からの参加者(正会員)につきましては、交通費補助をさせていただきます。



茗荷谷駅方面から見た茗溪会館

2 会の流れと交流の基本単位(例)

*テーブルは立ち席、指定制で、最初の席も含めて3度変わります。

*テーブル構成は、進行係(2名)、参加者(8～10 名) 右表参照⇒



A	氏名	所属	2回	3回
1	別府 太郎	大分	A	B
2	阿蘇 容一	熊本	B	C
3	日向 陽子	宮崎	C	D
4	出島 三郎	長崎	D	E
5	博多 喜朗	福岡	E	F
6	鳥栖 泰子	佐賀	F	G
7	花巻 一郎	盛岡	G	H
8	十日町栄一	新潟	H	A
◎	黒木哲二	鹿児島	A	A
○	松浦 稜	沖縄	A	A

前回の会合(2025/2/22)の風景

当日の流れ(概略)

- 1 開会にかえて 13:00～13:15
- 2 茗溪会理事長挨拶 13:15～13:20
- 3 自己紹介と小さな乾杯Ⅰ 13:20～13:45
▶別テーブルに移動 ① 13:45～13:50
- 4 自己紹介と小さな乾杯Ⅱ 13:50～14:15
▶別テーブルに移動 ② 14:15～14:20
- 5 情報提供の時間 14:20～14:50
- 6 大きな乾杯 14:50～15:00
- 7 懇談(自由に移動可) 15:00～16:50
- 8 大団円(中締め) 16:50～17:00

- ・自己紹介Ⅰ・Ⅱ(60秒/人)
- ・自己紹介の進行:テーブルマネージャー(茗溪会理事)
- ・小さな乾杯手配:フロアマネージャー(事務局員)



- ・別テーブルに移動①・②
- ・総合司会の号令 により、テーブル席の移動開始



3 情報提供者

- (1) 前回同様に、情報提供の時間を用意しております。
- (2) 情報提供(商品紹介、直販、受注等)のご希望がございましたら、茗溪会事務局大塚事務所までご連絡ください。

4 【申込方法】いずれかでお申し込み下さい

- ① QR コード(右上参照)《参加登録フォーム》
- ② 茗溪会 HP(イベント情報→茗溪・筑波倶楽部―異業種交流会Ⅲ→《参加登録フォーム》)

5 【お問合せ】ご不明の点やご相談等がございましたら、茗溪会事務局大塚事務所にお問い合わせください。

茗溪会大塚事務所 ☎ 03-3941-0136 mail info@meikei.or.jp

教職相談窓口 一覧

筑波大学 教職サポートルーム分室・相談窓口（R7.4.1～R8.3.31）

R07.04.01現在

名 称	姓 名	卒年	卒科・群	役職1（茗溪会関係）	役職2（自治体）
連携課	佐 藤 達	昭53	教大農化	茗溪会会員	元/水戸市立第四中学校 校長
連携課	植 木 邦 夫	昭58	筑二人間	（教職部会員）	元/県立土浦第一高等学校 校長
連携課	田 村 和 浩	昭61	筑修教	茗溪会会員	元/県立藤代高等学校 校長
連携課	高 村 祐 一	昭61	筑一人文	元支部長	元/県立水戸第一高等学校・付属中学校 校長
連携課	山 田 典 明	昭55	筑一自	茗溪会会員	元/石岡市立東小学校 校長

茗溪会窓口（R7.4.1～R8.3.31）

番号	名 称	姓 名	卒年	卒科・群	役職1（茗溪会関係）	役職2（自治体）
1	北海道	川 口 淳	昭58	筑修教	代議員	札幌龍谷学園高等学校 校長
2	青 森	前 田 済	昭61	筑一自	支部長	青森大学 教授、前/県立青森東高校 校長
3	岩 手	須 川 和 紀	昭62	筑一人文	茗溪会会員	岩手大学教職大学院特命教授
4	宮 城	土 生 善 弘	昭62	筑体	支部長、代議員	仙台大学附属明成高等学校 校長
5	秋 田	倉 山 徹	平01	筑一自	支部長	県立秋田高等学校 校長
6	山 形	鳥 羽 聡	平08	筑体	事務局長	県高等学校体育連盟 理事長
7	福 島	佐 藤 弘 樹	昭61	筑体	支部長	福島県高等学校PTA連合会 事務局長
8	茨 城	細 貝 雅 之	平02	筑二比文	支部長	県立日立第一高等学校・附属中学校 校長
9	栃 木	上 岡 利 夫	昭53	筑一自	元/支部長	元宇都宮大学 教職センター特任教授
10	群 馬	渡 辺 昭 彦	平05	筑二比	茗溪会会員	県立太田高等学校 校長
11	埼 玉	春 山 賢 男	昭55	筑一自	茗溪会理事	秀明大学客員教授、同教育研究所教授
12	埼 玉	田 中 邦 典	平04	筑修教	茗溪会会員	埼玉県教育局県立学校部長
13	千 葉	百 瀬 明 宏	昭55	筑一人文	支部長、理事	秀明大学教育研究所所長 教授
14	千 葉	渡 部 徹	昭57	筑一人文	茗溪会会員	秀明大学教育研究所 教授
15	東 京	高 橋 基 之	昭53	筑一自	支部長、理事	都教職員研修センター研修部教育開発課研修研究支援員
16	東 京	笹 のぶえ	昭56	筑二比	支部役員	大妻女子大学教職総合支援センター特任教授
17	神奈川	加 藤 充 洋	昭56	筑一社	支部長、代議員	横浜こども専門学校校長
18	神奈川	大 石 進	昭56	筑体	支部事務局長、代議員	横浜リゾート＆スポーツ専門学校校長
19	山 梨	小 林 智	昭63	筑修教	支部長	山梨大学 やまなし小学校教育講座 教授
20	長 野	石 川 裕 之	昭60	筑一人文	支部長	前県松本深志高等学校 校長
21	新 潟	山 下 幸 治	平08	筑芸修	理事	県立堀之内高等学校 校長
22	富 山	辻 村 努	平01	筑一人文	支部長	富山県立総合教育センター 所長
23	石 川	居 村 吉 記	平01	筑体	代議員	県立工業高等学校 校長
24	福 井	熊 野 善 明	平01	筑体	支部長	県立盲学校 校長
25	静 岡	石 川 徹	昭63	筑一人文	支部長	県立榛原高等学校 校長
26	愛 知	丹 後 茂	昭63	筑体	事務局長、代議員	県立昭和高等学校 校長
27	岐 阜	増 田 智 至	昭63	筑二農	支部長、代議員	県立多治見高等学校 校長
28	三 重	岡 村 芳 成	昭62	筑一自	代議員	鈴鹿中等教育学校 研修主幹
29	滋 賀	藤 江 隆 史	平08	筑体	会計	県文化スポーツ部 国スポ・障スポ大会局競技力向上対策室
30	京 都	遠 山 秀 史	昭61	筑一自	支部長	京都総合教育センター
31	大 阪	戸井田 克 己	昭59	筑二比	支部長	近畿大学 教授
32	兵 庫	横 山 清 隆	平01	筑二人間	支部長	県立神戸鈴蘭台高等学校 校長
33	奈 良	井 上 徳 之	昭58	筑一自	幹事長	県立高田高等学校 教諭(再)
34	和歌山	岡 本 規	平05	筑体	庶務	県立和歌山北高等学校 副校長
35	鳥 取	加 藤 淳 一	平06	筑体	庶務	県立鳥取緑風高等学校 教頭
36	鳥 根	塚 田 真 也	平21	筑博数理	庶務	鳥根大学教育学部准教授
37	岡 山	中 畑 里 英	昭61	筑体	茗溪会会員	岡山理科大学 特担講師
38	広 島	常 國 敬太郎	昭60	筑体	茗溪会会員	広島市立中等教育学校 教諭
39	山 口	藤 本 秀 夫	平05	筑修体	事務局長	宇部フロンティア大学付属香川高等学校 教頭
40	徳 島	田 北 直 樹	平05	筑体	支部参与	徳島県立池田高等学校 教頭(三好寮)
41	香 川	山 本 主 税	平01	筑一人文	茗溪会会員(前支部長)	香川県人権同和研究協議会
42	愛 媛	川 野 光 正	平02	筑体	支部長、代議員	愛媛県立宇和島水産高等学校 校長
43	高 知	楠 瀬 誠 悟	昭61	筑一自	支部長	前/県立城山高等学校 校長
44	福 岡	稲 富 勉	昭61	筑体	茗溪会会員	前県立香椎高等学校 校長
45	佐 賀	高 尾 和 範	平01	筑二比	茗溪会会員	県立小城高等学校 校長
46	長 崎	山 口 千 樹	昭60	筑二生	茗溪会会員(元支部長)	前県立長崎北陽台高等学校 校長
47	熊 本	寺 本 護	平08	筑体	幹事	県立菊池高等学校 校長
48	大 分	田 崎 弘 宣	昭63	筑体	元/事務局長	県立日田林工高等学校 校長
49	宮 崎	松 田 太 郎	平05	筑芸	茗溪会会員	県立高千穂高等学校 校長
50	鹿児島	鹿 倉 貢	昭57	筑体	前/事務局長	(公財)鹿児島県柔道会会長
51	沖 縄	三 輪 一 義	平02	筑修体	事務局長	琉球大学教育学部 教授

筑波大学人間学類(学群) 五十周年記念式典

去る2025年5月31日、筑波大学人間学類(学群)の創設50周年を記念する式典を、筑波キャンパス内の大学会館ホールにて開催いたしました。当日は、人間学類・人間学群の卒業生をはじめ、現職の教職員、在学生など約220名にご参加いただき、節目の年を祝うとともに、あらためて人間学群の原点とこれからの歩みに思いを馳せるひとときとなりました。



2007年の学群再編を経て、現在では教育学類、心理学類、障害科学類の3学類から構成される人間学群として発展を続けています。

式典の冒頭では、人間学群長である私から開会の挨拶を申し上げ、人間学群の原点である人間学類の理念が、50年を経た今なお教育と研究の基盤として受け継がれていることをお伝えしました。また、これまで学群を支えてくださった多くの卒業生、教職員の皆さまへの感謝の気持ちを表す機会となりました。

ご来賓としてご臨席いただいた加藤光保教育担当副学長からは「人間学群は、筑波大学における学際的・人間中心の教育の先駆的存在であり、その理念と実践は大学全体にとっても重要な指針となってきた」との祝辞をいただきました。加藤副学長はまた、「これからの50年も、人間学群が社会に必要とされる教育・研究の拠点として輝き続けることを期待しています」と述べられ、参加者一同、大きな励ましをいただきました。

続いて、東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターであり、人間学類6期生でもある三浦章宏さんによるバイオリン演奏が披露されました。三浦さんはご令嬢のピアノ伴奏と共に、「美しきロスマリン」「バッハ無伴奏」「チャルダッシュ」の3曲を演奏し、来場者を魅了しました。美しくも力強い音色が会場を包み込み、式典に華を添えました。

また、記念講演には、第27回司馬遼太郎賞を受賞された岡典子教授(人間系)が登壇しました。講演のタイトル

は『「逆転しない」答えを探してー人間学類(学群)が教えてくれたこと』。岡教授は、人間学類での学びが自身の研究や教育の礎になっていることを語り、その奥深さと柔軟さが今の社会にこそ求められていると強調されました。

後半のプログラムでは、「人間学類(学群)の軌跡と未来へー創世記の証人たちと語る、これからの学び」と題したパネルディスカッションを開催しました。進行を務めたのは、元人間学群長の綾部早穂教授です。パネリストには、第一期生の溝上智恵子さん(教育学主専攻)、小川園子さん(心理学主専攻)、大野裕史さん(心身障害学主専攻)の3名に加え、現役学生として吉岡海人さん(教育学類4年)、小峰颯斗さん(心理学類2年)、藤岡紗代さん(障害科学類3年)の3名に参加していただきました。

ディスカッションでは、創設当初の教育内容や学びのスタイル、学生生活の様子が語られる一方で、現在の教育や学習環境についても活発に意見が交わされました。中でも、一期生から「人間学の授業でもっと可能性を探っていきましょー」といった声がかけられる場面では、会場が一体となって盛り上がり、世代を超えた学びの交流の場となりました。

今回の式典に合わせて、人間学類一期生有志による記念文集『理念ありき』から半世紀を経てー筑波大学人間学類一期生の足跡』が発行されました。これは、卒業時に作成された文集『はじめに理念ありきー筑波大学人間学類一期生の証言』の続編にあたり

文集の制作にあたっては、パネリストとしても参加してくださった小川園子特令教授と溝上智恵子名誉教授などを含む「集まれ人間一期2025の会」というグループが中心となり、昨年末から毎月2回、2時間を超える熱のこもった打ち合わせを重ねて内容をまとめたものです。

この文集は、B6判194ページにわたり、一期生35名の卒業後の歩みと、当時の学びがどのように現在に活かしているかが綴られています。

現在の人間学群では、500名を超える学生が学んでおり、人間の発達や支援について科学的な理解を深めることを通して、社会の課題に主体的・創造的に取り組める人材の育成を目指しています。

50年の歩みを経て、学類・学群が築いてきた知と実践の伝統は、次の50年に向けて新たな一歩を踏み出しています。(文責・山田一夫・人間学群長)



茗溪・東西南北

★1都4県茗溪会主催の

講演会及び懇親会のご案内

来る11月30日(日)、茗溪会1都4県(東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城)の主催で講演会・懇親会を開催いたします。この講演会・懇親会は茗溪会に所属する全ての皆様にご参加いただけます。同窓による講演です。どうぞふってご参集ください。取り急ぎお知らせ致します。詳細は後日、季刊誌『茗溪』秋号及び茗溪会HPでお知らせいたします。

日時…11月30日(日) 14時半～

場所…嘉ノ雅茗溪館2階

参加費…6千円

講演者…現在調整中・近々決定予定。

後日茗溪会HP及び季刊誌『茗溪』秋号でお知らせいたします。

★第13回 東京茗溪会総会のご案内

来る11月30日(日)、13回目を迎える東京茗溪会の総会を開催いたします。会員の皆様、是非ご参加下さい。なお今回から総会のみ東京茗溪会独自で行い例年の講演会・懇親会は1都4県主催になりました。これは多くの同窓生の皆様から要望があり、素晴らしい講演を多くの同窓生の皆様に参加いただきたいの思いから変更致しました。

日時…11月30日(日) 13時半～

場所…嘉ノ雅茗溪館4階

事務局からのお願い

季刊誌「茗溪」では会員みなさまの諸活動を本誌に掲載したく、広く原稿を受け付けております。

同期会・クラス会に止まらず、サークル・同好会のOB・OG会、はたまた気の合うお仲間等々、そして各地域組織の諸活動などをご寄稿いただきたくお待ちいたしております。状況が分かる写真を添えていただけるとなお結構です。

原稿・写真の送付先は、メールはinfo@meikei.or.jpへお願いいたします。封書又はファックスでも結構です。皆様からのご投稿をお待ち申し上げます。

一般社団法人 茗溪会 季刊誌担当

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23

TEL: 03-3941-0136 FAX: 03-3941-7674

第4回

MKS

(茗溪関西・教育研究・産業人会議)

2025年

11月13日 木

18:30-21:30

道頓堀ホテル (06-6213-3444)

地下鉄 なんば駅 25番出口 徒歩3分

第1部 講演 18:30-19:30

道砂幸裕氏 (近畿大学情報学部 准教授、博士)

<H17版システム、H22版システム情報>

演題: 生成AIのこれまでとこれから

—その歴史・仕組み・すぐできる実践例—

第2部 ショートトーク 19:30-19:45

吉岡寛人氏 (吉岡印刷 創 社長) <H10版体育>

演題: 創業百余年の中小企業が取り組むブランディング

クリエイティブの現場におけるAI活用—

第3部 異業種交流・懇親会 19:45-21:30

■スキル&ニーズと自己紹介・名刺交換

■テーブルごとの異業種交流・懇親会

■参加費&懇親会費: 7000円

参加申込み

問い合わせ

MKS (茗溪関西・教育研究・産業人会議) 事務局

西山恭彦 <kayama1547@outlook.com>

桐の葉のつどい

同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆S42応用数理学科クラス会

とき 令和7年5月22日(木)

ところ 嘉ノ雅茗溪館



第1期生(昭和38年入学、昭和42年卒業)のクラス会はコロナ禍を隔てて8年ぶりに開催され、関東首都圏から12名が参加しました。本年は誰もが傘寿を越える年となりましたが、大学時代に思いを馳せ、あの頃を懐かしむ貴重な集まりとなりました。新設の学科は時代のニーズを先取りした新しいディシプリン(原理、学問分野)で展開され、私たちは希望という名の電車に乗って学ぶことができました。大学入学時から今日までの歩みを語る皆様のお話はわくわく感一杯、温かい励ましと感動に溢れ、いつまでも心に刻まれてゆくことでしょう。学科の名称の通り多様な分野で活躍してきた第1期生に乾杯!会の終わりには宣揚歌「桐の葉」を斉唱して散会…なお、フォーマルなクラス会は今回で最後、これからは、機会のある時に、それぞれのグループで懇親の場を設けて親交を深めていくこととしました。(文責:成田清正)

◆「桐心会」総会・懇親会

と き 令和7年3月8日(土)

ところ 北京飯店(大和市)



令和7年3月8日、大和市の北京飯店において、桐心会(神奈川県茗溪体育同窓会)が開催されました。茗溪会本部から矢野正人副理事長並びに成瀬拓也理事、神奈川茗溪会から加藤充洋会長をお招きし、また特別ゲストとして桐心会の揮毫をいただいた荏田高校の内田元子先生にご出席いただきました。

懇親会の中で、西塚祐一副会長が内田先生に揮毫をお願いすることに至った経緯が話されました。30数年前、横浜地区担当で桐心会が開催された時、当時荏田高校の故定松裕顕先生(令和6年12月ご逝去、剣道)が書道の内田先生に「桐心会と大きく書いて欲しい。会場正面に掲げたい。」とお願いされたそうです。内田先生は快く引き受けてくださり、この「桐心会」の揮毫が完成したということでした。それ以後も、この揮毫は、毎年同窓の集いを見守る存在として引き継がれ、現在に至っているというお話でした。

佐々木会長から、お礼の言葉とともに、内田先生に感謝状と記念品が贈られました。内田先生には、大変喜んでいただきました。

そして、今回は、久しぶりに出席された先生や初めて出席された先生方も多く、皆さん、お一人おひとりから聞くお話は、楽しくまた示唆に富むお話で、やはり同窓の集いは素晴らしいと思いました。最後に全員で肩を組み、宣揚歌「桐の葉」を熱唱、会を成功裡に終わることができました。 桐心会事務局 大石 進(S56筑体)

◆東京教育大学理学部数学科昭和40年卒桐の葉の会

と き 令和7年3月22日(土)

ところ 小石川後楽園涵徳亭

10年ぶりに卒業60年の会を開催した。この10年で8名の方が亡くなったことを知り参加者数を心配したが11名参加でホッとした。3日前には雪も降ったが、当日は晴れて暖かい日となった。皆いづれかの病を抱えているが、松井泰一氏の司会のもと元気に楽しく歓談した。

(写真:町田彰一郎 文責:渡邊義正)



◆筑波大学農林学類一期生

と き 令和7年4月12日(土)

ところ サンケイぶらざ

入学50周年を記念して、農林学類1期生が集まりました。時間が経っているので、連絡がとれない心配でしたが、36名が出席、欠席の連絡をくれた方は20名いました。五十年の歳月を感じる一人一人のお話が心に残る会となりました。

農林・生物資源学類全体の50周年記念の集まりが9月27日土曜日に大学を会場に予定されています。こちらでも多くの同窓生にお会いできること、楽しみにしています。(農林・生物資源学類 同窓会長 市石 博)

筑波大学は今

令和7年度筑波大学入学式・ 大学院入学式を挙

4月5日、本学大学会館講堂で、令和7年度筑波大学入学式・大学院入学式を挙行し、学群生2,230人、理療科教員養成施設入学生9人、大学院生2,568人が本学で新たな一歩を踏み出しました。

永田恭介学長の式辞、役職者紹介の後、式典の最後には本学混声合唱団・管弦楽団が歓迎の奏楽として昭和51年に本学学生が作詞・作曲した学生歌『常陸野の』を披露し、新入生の前途を祝しました。



第49回春季スポーツ・デー開催

5月17日、18日、筑波キャンパスにおいて第49回春季スポーツ・デーが開催されました。

スポーツ・デーは、開学して間もない昭和52年に第1回目を開催して以来、春季と秋季の年2回、各2日間の日程で開催し、本学の学生・教職員が共にスポーツを楽しむことのできる、本学ならではの伝統ある行事です。運営においては、200名を超えるスポーツ・デー学生委員会の学生が企画・準備に取り組みました。

初日は雨の影響により、屋外の正式種目は日曜日に順延となりましたが、二日目は晴れてスポーツ日和となり、屋外ではキックベース、フットサル、屋内ではバスケットボール、ソフトバレーボール、ドッジボール、eSportsの各種目において熱戦が繰り広げられました。

また、学生委員会企画としてフラッグフットボール、ウィップフルボール、足つばPK、シッティングバレーボール、モルック、サバゲー、アーム3種対決、ボッチャ、スポーツスタッキング、気配斬り、イントロドンが、サークル企画として各課外活動団体の体験教室・公開練習が行われ、参加者達は仲間とともに笑顔でスポーツを楽しんでいました。

今回のスポーツ・デーも、参加者の協力と、スポーツ・デー学生委員会のスムーズな運営により、無事に全日程を終了することが出来ました。



第51回宿舍祭 「やどかり祭」を開催

5月30日に前夜祭、6月1日に本祭が、平砂学生宿舍エリアを会場として開催されました。今年のテーマは「祭開始（再スタート）」。

前夜祭では、バンドサークルによる野外ライブ、筑波大学ジャズ楽団Zeopline bigbandによるJAZZ演奏、ファイヤーパフォーマンス団体火廻による炎を用いたパフォーマンス、火文字演出などのステージ企画が行われ、多くの学生が集まり大いに盛り上がりしました。

本祭は当初5月31日に予定されていましたが、天候不良のため6月1日に



順延して開催されました。本祭のオープニングセレモニーでは、ときめき太鼓塾、応援部WINSのパフォーマンスに始まり、千葉副学長（学生担当）の挨拶、宿舍祭実行委員会委員長萩谷良介さん（理工学群 社会工学類3年次）の挨拶が行われ、「やどかり祭」がスタートしました。午前中のオープニングセレモニーは予定通り行われ、模擬店や御輿パフォーマンスなどの企画も盛況のうちに実施されました。残念ながら、浴衣コンテストや表彰式など一部の夜間企画は雨天のため中止となりました。

今年も学生宿舍入居者のみならず、学外者や留学生の参加も多く見られ、交流の場としての目的を十分に果たすことが出来ました。

茗溪学園だより

個人研・研究構想発表会

高校2年次の学びのメインテーマとなる「個人課題研究」ですが、今年は研究が本格化する夏休みを前に、研究分野の近い者同士で、これまでの成果を踏まえ、これからの進め方をどうしたらよいか、意見交換する「研究構想発表会」が開催されました。



この会場はスポーツをテーマにしたグループ。けが予防、メンタルトレーニング、空間認知能力の向上、ゲーム分析の研究について意見交換。

の研究意欲の後押しをするというものでした。また、観点的に評価する経験も、研究を分析的に理解する機会となりました。

模擬国連に参加

6月8日、大妻中学高等学校と渋谷教育学園渋谷高校共催の模擬国連定例大会が、大妻女子大学が会場に開催され、本校生徒12名も参加しました。この模擬国連には全国から40校



670名が参加し、7議場に分かれて議論が繰り広げられました。テーマは、「持続可能なアパレル産業の発展」でした。参加者は、それぞれ異なる国の代表として各国の立場や利害関係を理解し、自国の政策に沿った発言や提案を行いました。本校生徒の多くは、初めての参加でしたが、政策議論を戦わせるなど他校の生徒との交流を深め、充実した時間を過ごすことができました。

海外大学説明会開催

本校では、海外大学進学支援として海外の大学から入学担当者をお呼びして説明会を行う機会を設けています。

昨年はカナダのUniversity of Torontoや、ヨーロッパの大学進学に関する説明会などを実施しました。今年度は、5月にオーストラリアのシドニー大学、6月にはシンガポール国立大学とマレーシアの大学の説明会を実施しました。今年5月までの海外大学合格数は90名、進学者は22名でした。その内、柳井正財団の奨学金や日本学生支援機構の奨学金に合格し、多額の奨学金をいただいて進学する者が8名です。生徒のニーズに合わせて支援体制整

備をし、それぞれが自己実現を果たせるよう進路指導を進めていきます。



シドニー大学の説明会(5月27日開催)のようす：同大学はオーストラリア最古の歴史と伝統を誇る名門大学。世界ランキング18位。本校からは2020年からの6年間で11名が合格している。

アジアジュニア選手権で金と銅メダル

6月5〜9日まで韓国で開催された第18回アジアジュニア選手権体操競技の日本代表選手として本校生徒(高校3年男)が出場しました(昨年に続く2度目の出場)。日本の総合優勝に貢献し、種目別の鞍馬では銅メダルに輝きました。



9月に水戸で開催される第16回全国中学大会へ関東代表として出場します(4年連続13回目)。昨年まで同大会三連覇中です。4連覇5回目の日本一を目指します。



中学ラグビー部関東大会優勝

6月22日、埼玉県熊谷ラグビー場で第76回関東中学ラグビー大会決勝戦が行われ24対5で国学院久我山中学(東京)に勝利し、4年連続19回目の優勝を果たしました。76回の歴史を重ねる大会ですが、本校は1981年の初参加から今年までの43大会(コロナ禍で2大会中止)で決勝進出が29回(準優勝10回)を数えます。優勝回数19回は1位タイ(決勝戦進出数は最多)となりました。実績、名実ともに関東・東日本地区でのナンバーワンのチームになったといえます。

部活動報告(試合結果など)

【高校運動部】関東大会結果：ラグビー部Aグループ4位/バドミントン部男団体準優勝(決勝戦初進出)・女団体ベスト16/剣道部男団体2回戦進出・女団体2回戦進出・女個人ベスト8/体操部男団体12位・個人跳馬4位・女団体11位・個人平均台9位/軟式野球部1回戦敗退

インターハイ県予選：バドミントン部男女団体共に優勝(男6連覇8回目、女2年ぶり4回目)・男単優勝と準優勝・男複優勝以上インターハイ出場(山口県開催)/体操部男女団体共に優勝(男は14年ぶり女は初優勝)・個人総合男女共に優勝以上インターハイ出場(島根県開催)/テニス部男団体優勝・個人単優勝と3位・個人複準優勝以上インターハイ出場(広島県開催)/ラグビー部第12回全国7人制大会県予選優勝・全国大会出場12回目(7月長野県菅平高原)

追 悼 録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

新田 豊人	東京	R6. 2. 8	長男	新田 順
S23臨生				
酒井 昭子	神奈川	R7. 6.18	次女	間瀬美音子
S23農教				
金子 明友	東京	R6.12.24	妻	金子 順子
S24体				
鈴木 嘉弘	静岡	R7. 2.20	長男	鈴木 真人
S26文二				
石毛 久義	東京	R7. 3.22	長男	石毛 健吾
S26理二				
倉木 常夫	東京	R6.12.31	長男	倉木 貴史
S26文四				
佐野 和夫	東京	R7. 3.20	長男	佐野 哲郎
S30教大体				
牟田 義則	東京	R6. 2.27	長女	加沼恵理子
S26体専				
樋口 良夫	群馬	R6. 2.13	長男	樋口 和之
S27文四				
奥津 裕	神奈川	R6.12.28	長男	奥津 哲也
S29教大教				
日高 武雄	愛知	R7. 3.27	長男	日高 慎吾
S30教大数				
平塚 昌二	静岡	R6. 2. 1	妻	平塚 妙子
S30教大数				
坂本 宗弘	福島	R7. 4.21	長女	星加 和子
S30教大化				
西村 文雄	茨城	R7. 5.25	長男	西村 敏一
S30教大総農				
鶴見 尚弘	東京	R7. 5. 6	長男	鶴見 和弘
S36院博東史				
川名 幸雄	千葉	R7. 3.31	妻	川名 雅子
S31教大英				
鈴木 健一	東京	R6.12. 5	妻	鈴木 容子
S31教大法政				
今井 靖親	兵庫	R7. 5.12	妻	今井 道子
S31教大心				
小倉 秀夫	青森	R7. 3. 2	妻	小倉 修子
S32教大西史				
斎藤 武生	埼玉	R7. 2.10	長男	斎藤世紀生
S41院修英				
西 順一	栃木	R7. 4.16	妻	西 こずえ
S36教大専攻				

染谷 宣弘	埼玉	R7. 3.23	妻	染谷多賀子
S35教大農経				
及川 敏夫	東京	R7. 4. 8	長男	及川健太郎
S36教大健				
木村 秀次	東京	R6. 8.27	長男	木村 一
S44教大国				
丸山 忠彦	長野	R7. 2. 1	妻	丸山恵美子
S36教大植				
服部 昌晃	神奈川	R7. 2. 8	妻	服部 幸子
S36教大体				
後藤 征士	大分	R7. 4. 9	妻	後藤 眞澄
S37教大体				
戸村 義典	埼玉	R7. 2.12	又姪	馬場 理恵
S38教大法政				
田村 文雄	千葉	R7. 4.22	妻	田村 圭子
S38教大農工				
飯島 宏	東京	R7. 1.27	妻	飯島 朋子
S46院修仏				
小西 邦夫	神奈川	R6. 9.23	妻	小西理恵子
S40教大法政				
清水 正文	静岡	R7. 4.27	妻	清水 斐江
S40教大農化				
鈴木 昭二	愛知	R7. 4.11	妻	鈴木 ふみ
S41教大彫				
萩原八十八	三重	R7. 3.23	妻	萩原 康子
S41教大体				
鷹尾宏之進	埼玉	R7. 3.10	妻	鷹尾 安子
S43院修農工				
西川 潔	茨城	R7. 3.25	妻	西川 陽子
S46院修美				
寺島 明道	福島	R6. 3.26	長男	寺島 道大
S44教大木工				
廣田 博昭	埼玉	R6.12.10	兄	廣田 源治
S49教大国				
内田 孝司	北海道	R7. 5. 6	妻	内田 智子
S50教大英				
森河 孝夫	愛知	R7. 3.25	弟	森河 和雄
S55筑二人間				
小林 明彦	東京	R6.11.28	妻	小林 恵子
S58筑修環				
和泉 友紀	香川	R6. 1. 4	母	和泉 幸子
H5筑一自				

第20回「科学の芽」賞（筑波大学）

【趣旨】

朝永振一郎博士の功績をたたえ、それを後続の若い世代に伝えていくとともに、小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と研究する姿勢を育てる。

【応募内容】

自然現象に接する中で「あれっ」「なぜ」と思うこと（「科学の芽」を実験や観察をとおして育て、レポート10枚以内にまとめる）。

【募集対象】

小学3年生～高校3年生

【応募期間】

令和7年8月18日～9月13日

【審査結果発表】

令和7年11月下旬

詳しくはこちら



筑波大学 朝永振一郎記念

「科学の芽」賞募集

2025 8/18(日)~9/13(金)

詳しくは、筑波大学 WEB サイト
「科学の芽」を参照
https://www.u-tokyo.ac.jp/science/

筑波大学
University of Tsukuba

詳細・問い合わせ・応募先
筑波大学東京キャンパス事務部学校支援課

令和7年春の叙勲

おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

中村満紀男	42 教大教	44 院修教	(名誉教)
種倉 紀昭	43 教大絵	45 院修美	(岩手)
都筑 邦春	46 院修美		(埼玉)
美谷島 実	47 博理研		(長野)

瑞宝小綬章

河原井忠男	45 教大文経	(茨城)
澁江 一雄	51 教大農経	(栃木)
池田 豊	51 教大化	(埼玉)
大畑多津雄	52 教大数	(神奈川)
窪田 善雄	52 教大東史	(長野)
梅原 通夫	52 教大数	(静岡)
川北 明男	36 教大健	(大阪)

瑞宝双光章

加藤 一俊	39 教大農林	(東京)
関 久志	53 教大特教	(新潟)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

広報

訂正

前号(令和7年春号)で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P14「茗溪アルバム」2段目 18行目

(正) 主題歌

(誤) 主題歌主題歌

茗溪会では、学生活動支援事業として筑波大学生

の団体又は個人が課外活動として取り組んでいるイベント等の企画に対して、計画段階で審査し助成金を支給しています。健全で優れた成果が期待される課外活動に取り組んでいる筑波大学学群学生及び大学院生等、スポーツ、芸術、文化活動、ボランティア、課外で取り組む研究、地域貢献、ベンチャービジネス等の学内におけるサークル活動やNPOを含む学外での活動を行う団体又は個人を対象としています。

また、同じ都道府県出身の筑波大学学群・大学院の学生や教職員及び卒業生が集い、大学内・外の同郷人との交流等を行う団体(以下「県人会」という。)が実施する活動・イベント等に対し助成するなど県人会の活動に対する支援も行っています。将来にわたり継続した活動が見込まれる「県人会」主催の情報交換や相互理解・連携が対象です。

表紙写真について

筑波大学女子ラクロス部

筑波大学女子ラクロス部は24シーズン、部員16人で2部昇格を目標に掲げ、関東リーグ戦に挑みました。怪我や天候による日程変更にも苦戦しながらもブロック戦を闘い抜きました。

写真は9月8日初戦の一橋大学戦で得点が決まった際の様子です。この試合では最後まで競り合う激しい試合展開となり、結果は引き分けに終わりました。

スローガンである「繋げ超えろ」をチームで体現すべく、チーム内外の人と深く繋がり合い応援されるチームを目指し、これからも高みを目指していくそうです。

24シーズンで叶わなかった2部昇格を今年もう一度目標として達成することを誓い、部員全員で日夜、部活動に取り組んでいるとのことでした。

(事務局)

編集後記

季刊誌『茗溪』(春号)で紹介しました茗溪会賞芸術部門受賞者の作品等は、本号(夏号)に掲載いたします。

初めて6月に開催された「第14回定時総会」の様子を柴田理事に執筆していただきました。

今年(2025)年は地下鉄サリン事件から30年目、日本航空123便墜落事故から40年目、太平洋戦争終結から80年目となります。

「桐の葉のつどい」への投稿もお待ちしております。

(事務局)

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

令和7年7月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL <http://www.meikei.or.jp>

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

— 筑波大学の知の発信 —
筑波大学出版会

**病誌から考える
精神科面接**

佐藤 晋爾 著



偉人の人生や言動、著作から精神疾患の可能性を検討し、どのように病と向き合ったかを解き明かす病誌（病跡学）を通じて、精神科面接のエッセンスを探る

ISBN 978-4-904074-84-8（紙版）C3011

A5判並製 216頁 紙版・電子版 定価 3,740円

**わが国における
制御焦点理論ならびに
制御適合理論に関する
実証的研究**

外山 美樹 編著
浅長 湯三海
山 峰 和沼
慧聖 立秀亮
人 平 著



著者たちが行ってきた制御焦点理論ならびに制御適合理論に関する研究を、海外の先行研究や事例とともに紹介。動機づけ研究を志す方の必携の書

ISBN 978-4-904074-86-2（紙版）C3011

A5判並製 328頁 紙版・電子版 定価 6,160円

**刊行予定
最新
精子学**

（令和7年秋頃刊行予定）

稲葉 一男 監修
伊川 正昭 編
吉田 健太郎 編
種村 直人 編
学 集

販売・丸善出版

株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人（昭57筑基工）

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail travel@juwa.com

〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297 (52) 1221 FAX 0297 (52) 1220

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケイエスアイ**

本社 〒557-0063

大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」

TSUKUBA WAY プロジェクト

～若溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武（体育専門学群）
2004年卒



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)4501

取締役副社長執行役員 植岡 祥之（昭57筑社工）

学校服のことなら

株式会社 **オリムピア**

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 1-43-6

TEL:03 (3654) 2251 FAX:03 (3651) 2323

<https://www.s-olympia.com>

取締役 渡邊（草間） 悟（56 農林・62 博農）

集めるのは「知識」と「技術」

さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオントを形にする会社

PiCK & MiX

Keeping Up Innovation with Integrating
Art & Technology

株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 松村直樹

<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC

Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之（93筑修経営）

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション！

**新・教職課程演習
全22巻**

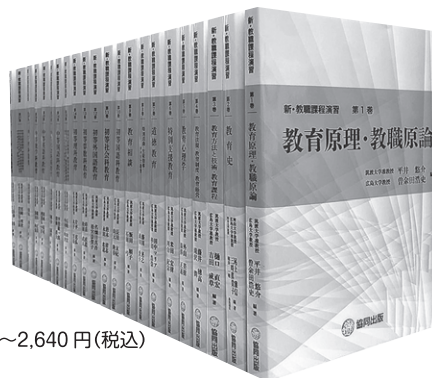
筑波大学人間系教授 清水美恵

広島大学大学院教授 小山正孝

監修

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位（大学院）プログラムと、
広島大学大学院人間社会科学研究所（旧大学院教育学研究科）の専任教員が編者として
初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製
定価：1,650円～2,640円（税込）



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-5

TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>

「新・教職課程演習」全22巻



ここから始まる、
あなたの未来。

～キャリアを共に創造しよう～

一緒に働きませんか？

カクヤスは、酒類・食品等の飲食店向けおよび家庭向け販売、「なんでも酒やカクヤス」を主力とする店舗運営を行っております。全国各地から多数入社しており、若手からベテランまで活気のある会社です。

進化し続ける
ビジネスモデル

国内飲食店向け
酒販売上No.1

※2016年調査会社調べ

豊富な
研修プログラム



社員のご家族も参加可能な社内イベントや、資格取得をサポートする制度、キャリアに応じた研修プログラムなど、安心して成長できる環境づくりを行っています。

株式会社カクヤス

<会社概要>

本社：東京都北区豊島2-3-1

代表者：代表取締役社長 佐藤 順一

設立：2020年10月1日 資本金：1,000万円

事業内容：酒類・食品等の飲食店向けおよび家庭向け販売
「なんでも酒やカクヤス」、その他の店舗運営

連絡先：03-5902-3619（採用担当）



「本気」で結婚を目指す

筑波大学同窓会員の皆様

「成婚」をサポートいたします。



To achieve your happy marriage.

筑波大コース

通常登録料
~~33,000円(税込)~~

▶▶ 0円

受付時に
「『茗溪』を見た」と
お申し付けください。

47年の実績で成婚までサポート

株式会社ブライダルは創業以来47年にわたり、大学同窓会員の皆さまをはじめ、たくさんの方々を成婚に導いてきました。少子化が叫ばれる昨今、当相談所は「幸せな結婚を実現する」という面で社会貢献を目指しています。

特に筑波大学の皆さま向けの「筑波大コース」は大変人気で、多くの同窓会員様にご利用いただいております。この「『茗溪』を見た」とお問い合わせ時にお申し付けいただいた方は、通常33,000円の登録料を【無料】にてご入会いただけます。本気で結婚を考えているお相手との出会いを求める方は、ぜひお問い合わせください。

定期的に「親御様無料説明会」を開催中です。

47年に渡るノウハウで
お子様との会話の秘訣を
お伝えしています。
HP・フリーコールより
お気軽にご相談ください。

1978年創業



あなたと未来をつくる
Bridal



0120-415-412

営業時間：平日 10:00～20:00 / 土・日・祝 10:00～18:00
定休日：月曜日(祝日は除く)・年末年始

ブライダル 結婚相談

検索

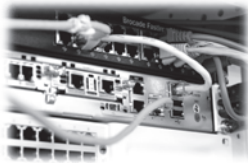
<https://www.bridal-vip.co.jp/>



東京本社：〒160-0023 東京都新宿区西新宿8丁目4-2 野村不動産西新宿ビル9F 名古屋本社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F



「安心」「安全」「快適」な
ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティー



FAAM



ESMO



No Man



Do RAY

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
ITソリューションをご提供いたします。

株式会社FYF

～ITソリューションでより良い未来を～

会社 HP

<https://www.fyf-h.com>

x (旧 Twitter) @FYF_INC

本社 〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6
TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929

関西支店 〒530-0026 大阪府大阪市北区神山町 1-5 扇町公園ビル 6F
TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023

九州支店 〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモンドビル 5F
TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453

東北支店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F
TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291

北海道支店 〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西 1 丁目 1-2
21 きのしたビル 9F
TEL 011-206-7482 FAX 011-206-7483



【会社 HP】

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗 溪 会

〒112-0012

東京都文京区大塚 1 丁目 5 番 23 号

電 話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp

大学生の安全行動志向にみる

大人になるための非認知能力

ウェルビーイングとエージェンシーが求められる時代に

河村茂雄 著 四六判, 176頁 定価2,200円(本体2,000円+税10%)

非認知能力を育てる視点を、幼児から大人まで見通す

★非認知能力の基盤は子ども時代に育つ！

小・中学校教師、乳幼児～学齢期の子をもつ保護者へ——
教育・子育てで、子どもとどう向き合えばよいのか？

★成長してからもリカバリーできる！

近年の大学生のリアルな姿をタイプ別に紹介。
不安を乗り越え、自ら考え行動できるよう支える足場かけとは？

★Z世代とのギャップに悩む管理職も必見！

若手社員の特徴を踏まえた関わり方と、職場適応・成長を支えるヒント。



おもな
目次

序章 近年の大学生の姿から見えてくるもの

1章 大学生のタイプと非認知能力との関連

2章 なぜ非認知能力の発達格差が生まれるのか

3章 近年の大学生の支援のあり方

4章 職場における自律性支援

5章 子ども時代に非認知能力を育てるには

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です
- ◆文部科学省 SSH（3期目）認定校です

学園説明会

8月2日(土)

アカデミアクラス説明会

8月9日(土)

入試や説明会に関わる詳細はホームページ
ご確認ください。

下記のe-mailでもお問い合わせができます。
ご活用ください。



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp（見学等） entry@meikei.ac.jp（入試等）